

サビエル生誕五百年



巡礼の道

139

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

## 陸の孤島

タイ北部に住む山岳  
少数民族モンを訪ねた  
昨年九月の旅は、予定  
ルに一泊したあとは  
①シャンティ山口が

運営するモンの子ども  
たちのシャンティ寮に  
三泊。

②電気もない山奥の  
村でホームステイで三  
泊。

③モン族が運営する  
キャンプロッジ三泊。  
となっていた。

①と③は予定通りだ  
ったが、②の電気も届  
いてない村でのホーム  
ステイは昨年七月から  
八月にかけて降った大  
雨で山奥はまだ道路事  
情が悪く、危険なため  
中止となり、低地のモ  
ン族の村でのホームス  
テイに変更された。

正直に言えば電気の  
ない村での生活は日本  
では絶対に体験できな  
いことで、一番楽し  
みにしていただけに「多  
少無理をしても実施し  
たらいいのに」と思っ  
たのだ。

雨期、山への道はぬかるみ状態



しかし③のキャンプ

ロッジに  
向かって  
考えの甘  
さを痛感  
した。

ロッジ  
にはトヨ  
タの三五  
〇〇ccの  
四輪駆動  
車で行っ  
たが、舗  
装された  
幹線道路  
から山道  
に入るとデコボコ道で  
車は大きく揺れる。

さらに奥地に入ると  
赤土の道路はぬかるん  
で車輪は空転し、車は  
左右に揺れてなかなか  
前に進まない。

私はペースメーカー  
を入れているからと、  
運転席の後ろの席に座  
らせてもらったが、後  
ろの荷台に乗っている  
人は体を支えるものも  
なく、悲鳴のような大  
声が聞こえてくる。

タイの雨期は六月か  
ら十月。この間は雨で  
山への道は通行不能に  
なることがある。途中  
の村の車やバイクはど  
れもチェーンをつけて  
いる。

十五キロばかりの山道  
を一時間近くかけてや  
つとロッジに到着した

バイクもチェーンをつけないと進めない



時は「こんな無理して  
までロッジに来なくて  
もいいのに」という気  
持ちになっていた。

山奥の電気のない村  
に行くには、もっとひ  
どい道を通らなければ  
ならないという。すで  
にホームステイ中止を  
告げられた時のがつか  
りした気分は消え「中  
止は当然」ロッジの方  
も」という気持ちに変  
わっていたのだから、  
我ながら自分のいい加  
減さに苦笑した。

山への道がぬかるみ  
状態になると山のモン  
の村は陸の孤島とな  
り、これが貧しさに拍  
車をかける一因になっ  
ている。

その悪路でも走れる  
強力な四輪駆動車は三  
百万円。日本の老婦人  
ジオ局長